

皆さん。こんにちは！

私は今年の 4 月から米山記念奨学生となりました大阪観光大学観光学部のエータンダーナインと申します。フルネームは長いので 9 番と同じ発音の「ナイン」だけ覚えてくれたら大丈夫です。出身はミャンマー（昔ビルマ）です。今日の卓話では「日本とミャンマーの間で築きたい関係」というテーマで話させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

話の流れとしては大きな部分 4 つに分けて進めさせていただきます。最初は簡単に自己紹介（少しミャンマーの紹介も入れて）なぜ私は日本を留学先と決めたのか、そしてこの日本での留学を通して私に変化が起ったことと最後にロータリー米山記念奨学金組織に出会ってという構成で行きたいと思います。

それでは、最初に自己紹介させていただきます。私はエータンダーナインと申します。私の国では日本のように名字と名前、分けることなくすべてが名前なんです。なので、ミャンマーでは家族であるながらもみんなの名前はバラバラなのです。私は日本に来てからナインと呼ばれるようになりました。出身地はミャンマーで日本に例えると大阪的な都市、マンダレーというところで生まれ育ちました。皆さん、聞いたことはありますか？今は大阪の泉佐野市に住んでいます。所属大学は大阪観光大学観光学部 3 年生です。趣味は旅行することとその旅先での思い出を記録するため写真を撮ることが好き、なんてただの言い訳です。単純なものでも写真を撮ってしまいます。

ここで少しミャンマーの紹介を入れたいです。

皆さん、ミャンマーのこと聞いたことありますか？日本にはミャンマーよりビルマの方が知っている方が多いと思います。日本に神社やお寺が全国にあるようにミャンマーには金色の仏像、信仰の対象であるパゴダが点在します。仏教徒が多いミャンマーのパゴダは祭りがあるときや特別な日だけに混み合うのではなく、年中参拝者でにぎやかです。今スライドに映っているのはミャンマー最大の聖地、シュエダゴン・パヤー（パゴダ）の夜のライトアップです。次は日本人の中で結構ご存じの方が多いと思います。落ちそうで落ちない不思議な岩のゴールデンロックです。続きまして、ミャンマーの最大な見どころは世界三大仏教遺跡のバガン遺跡です。バガン遺跡は今年ようやく世界遺産に登録されました。

続いては、滋賀県にある琵琶湖のような世界有数の古代湖はミャンマーにもあります。インレー湖と呼びます。片足でボートを漕ぎながら漁業をすることで有名です。次の写真は私の地元であるマンダレーにある 100 年以上の歴史を持つチーク材でできているウーベイン橋です。ここから眺める夕日はとても幻想的で美しいです。次の写真はほぼミャンマー人の女性がしている伝統的化粧のタナカ（タナッカ）です。ミャンマーはとても暑い国なので日焼け止めにも使われています。次の写真もミャンマーでよくみられる托鉢に並

ぶ僧侶たちです。いかがでしょうか？ミャンマーのイメージは見えてきましたでしょうか？

続きまして、私が日本に留学した理由について話させていただきます。留学生の多くは日本が好きだから、日本の文化が好きだから、自然にあふれる日本が好きだから、それとも日本料理やアニメが好きだからという理由で日本を留学先として選んでいます。私の場合は「日本語」です。

私の母国、ミャンマーでは16歳で高校を卒業します。私は高校を卒業してマンダレー外国語大学で英語を専攻して4年間大学を通いました。ここで皆さん疑問を感じませんか？なぜ私は英語を学んでいたにもかかわらず日本への留学を選んだのか。その理由は私に姉がいます。日本では年子と言いますが、姉と私は一歳だけ離れています。姉も高校を卒業して同じ大学、同じ専攻に勉強していて学年は一つ上のため先輩として学部内の活動や大学内の活動などにも携わっていて先生たちにも結構人気があります。そのわけで、私が紹介されるとき、「彼女は〇〇さんの妹ですよ。お姉さんはとても優秀ですよ。。。」といつもお姉さんと比べられていました。私は消極的で学業にもあまり優秀ではありませんでした。そうしていつもお姉さんと比べられていたのが嫌で、自分にできるものはないのか、自分の可能性について考えるようになりました。その時、付き合っていた友達が日本語を学んでいる友達が多く、日本語を勉強してみてもは。。と勧められて私は大学4年のとき日本語を勉強し始めました。英語とは違って母国語のミャンマー語と似ている部分もあって、言葉遣いなどにも興味津々でもっと日本語の勉強をしたいと思いました。

私はお姉さんと違う道を歩こうと考えて日本へ留学し、日本語が上手になるように勉強したいですが、家族に経済的厳しさがあって日本への留学は夢のようなことでした。しかし、私は運がよかったです。日本語能力試験N2に合格して、福岡県久留米市にある日本語学校がミャンマーの学生が欲しいということになって、私は2016年4月に来日できるようになりました。くるめ国際交流学院に日本語を一年間勉強しました。

日本に来る前は日本に来て勉強するだけが夢だったんですが、来てからは1年間で国に帰るのがまだ早いと感じました。帰国、就職、進学するという3つの選択があって私は進学することに決めました。2017年の4月に大阪観光大学に入学しました。

それが日本に留学して変わったものです。人生に二度目の大学はたくさんの不安もありますが、日本人の学生と交流や自分と同じ留学生たちと出会って視野が広がりました。自分の日本語のレベルを確認するため、留学生による日本語弁論大会にも積極的に参加するようになって物事を自発的に取り組むようになりました。大学だけではなく、アルバイト先にもたくさんの出会いがあって、日本にいる生活は周りの人々に支えられていて感謝の気持ちで毎日を過ごしています。

それにとどまらず、今年4月には米山記念奨学生に選ばれて、私はこの出会いを大切にしてたくさんの方々と交流をし、この組織について学び、自分の可能性を広げたいと思

っています。学業の目標としては総合旅行業取扱管理者・資格を取得できるように頑張りたいです。

最後に卓話のタイトル「日本とミャンマーの間で築きたい関係」についてなんですが、今の私では正直に言うと分かりません。私は大学を卒業して日本の旅行会社に就職して観光でお互いの国の関係を深める仕事と日本語とミャンマー語を活かして活動できる大使館での仕事も考えています。私は将来日本とミャンマーの間で架け橋のように活動してそれが友情で深まる関係であることを目指していきたいです。

ご清聴ありがとうございました。